

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テ マ	指定避難所における福祉避難スペース設置・運営に関する実践研究				
研究組織	代 表 者	所 属 ・ 職 名	短期大学部・准教授	氏 名	江原 勝幸
	研究協力者	所 属 ・ 職 名	豊田自治会・会長	氏 名	児嶋 喜彦
		所 属 ・ 職 名	西豊田地区社協・企画委員長	氏 名	青山 文代
		所 属 ・ 職 名	西豊田学区民児協・会長	氏 名	加藤 洋子
		所 属 ・ 職 名	静岡市立豊田中学校・教頭	氏 名	佐野 忠宏
		所 属 ・ 職 名	豊田中学校 PTA・会長	氏 名	村松 伸隆
		所 属 ・ 職 名	静岡自立生活支援センター・相談員	氏 名	大川 速巳
		所 属 ・ 職 名	小鹿なでしこ苑・相談員	氏 名	望月 亜希
		所 属 ・ 職 名	静岡市社協・生活支援コーディネーター	氏 名	勝又 亘
		所 属 ・ 職 名	静岡県社協・静岡 DWAT 事務局長	氏 名	村松 奈々
		所 属 ・ 職 名	静岡市障害者協会・会長	氏 名	牧野 善浴
	発 表 者	所 属 ・ 職 名	短期大学部・准教授	氏 名	江原 勝幸

講演題目
指定避難所における福祉避難スペース設置・運営に関する実践研究
研究の目的、成果及び今後の展望
災害時に避難所運営は行政がやるものという認識が依然強く、地域の防災訓練でも避難所運営を取り入れている地域はほとんどない。要配慮者を参加することを踏まえてプログラムを組む防災訓練もほぼ行われていない現実がある。内閣府は「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」において災害時に迅速な対応として「一般の避難所（小・中学校、公民館等）等の中に、介護や医療相談等を受けることができ、災害時にすぐに避難できる空間を確保する」と指定避難所内に要配慮者への福祉避難スペースを開設するよう市町村に求めているが、その具体的な指針等は示されておらずその訓練も実施されていない現状がある。そこで、要配慮者支援をテーマに福祉と防災が連携する西豊田インクルーシブ防災活動に継続的に取り組む研究代表者・分担者が連携し、指定避難所での福祉避難スペースの設置及び運営を参加者が体験する「リアル HUG」を実施し、福祉防災シンポジウムにおいてその実践活動を検証する。 10 月 12 日－13 日に静岡県立大学小鹿キャンパスにおいて親子避難所キャンプを実施し、そこで防災講座及び防災ワークショップにより指定避難所における福祉避難スペースの必要性や運営について学んだ（参加者 51 人）。その活動を踏まえ、12 月 6 日－7 日に学区指定避難所である豊田中学校体育館において福祉避難スペースの設置を参加者が行い、リアル HUG において要配慮者班が対応する実践訓練を行った（視察者を含め参加者 181 人）。1 月 18 日には静岡県地震防災センターにおいて福祉防災シンポジウムを開催し、第 3 部リアル HUG シンポジウムで 12 月リアル HUG に参加した運営者と要配慮者（高齢・障がい）が登壇して福祉避難スペースの対応や課題について検証した（オンライン参加を含め、参加者 155 人）輪島市や珠洲市では福祉避難所となる施設に大きな被害が出て、職員も被災する中で指定福祉避難所が開設できない課題が露呈したが、本実践研究により、一時避難となる指定避難所であっても支援や配慮が受けられる福祉避難スペースの設置と要配慮者班の配置など運営体制を構築しておけば要配慮者を受け入れることができることが明らかになった。その成果の鍵は平時からの運営体制の構築と訓練にほかならない。まさにこれまでの災害の教訓「訓練だけで全てに対応できないが、訓練なくして対応できない」であり、災害時に要配慮者支援が機能するよう、平常時から住民主体で支え合える地域づくりや地域の福祉力向上が求められてくる。 一連の活動を通した知見を活かし、他地域での福祉避難スペース設置・運営を訓練で実践する活動をサポートし、活動の横展開を進める。また、地域住民主体で指定避難所内に福祉避難スペースを設置・運営できるよう、実践的な避難所設置・運営マニュアルを作成し横展開に活用していく。